2017 年度 小委員会活動成果報告

（2018 年　２月　８日作成）

小委員会名	建築音響測定法小委員会	**主 査 名**：山内　崇 **就任年月**：2017 年　４月
所属本委員会 （所属運営委員会）	環境工学委員会 （音環境運営委員会）	**委員長名**：岩田　利枝 **主 査 名**：古賀　貴士
設　置　期　間	2015 年　4 月　　～　　2019 年　3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画 （箇条書き）	・建築音響に関する測定方法について調査および検討を行う。 ・フランキング成分を把握するための測定方法について検討を行う。 ・材料の吸音率測定や音場把握のために pu センサの適用に関する検討を行う。 ・A 特性による遮音性能評価に関する検討を行う。 ・15 年度: 上記検討の共同実験計画および実施。A 特性評価:測定上の課題整理。 ・16 年度: 前年度実験結果による適用範囲検討および新たな共同実験の実施。pu センサ:シンポジウム開催。A 特性評価:課題整理。 ・17 年度: 前年度からの継続した検討および新たな取り組みに関する議論。A 特性評価:測定上の課題検討。大会 OS 企画検討。 ・18 年度: 全体取りまとめ	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：無し	
	主査: 山内崇（戸田開発セ） 幹事: 杉江聡（小林理研）、竹林健一（鹿島技研） 委員: 曾田祐（長谷工技研）赤尾伸一（三井住友技研）、稲留康一（奥村組技研）、古賀貴士（鹿島技研）、酒巻文彰（永田音響設計）、坂本慎一（東大生研）、田中学（日総試）、富来礼次(大分大)、平光厚雄（国総研）、宮島徹（清水技研）、矢野博夫（千葉工大）、渡辺充敏（大林組技研）	
設置 WG （WG 名：目的）	無し	
2017 年度予算	50,000 円	**ホームページ公開の有無**：無し **委員会 HP アドレス**：

項　　目	自己評価
委員会開催数	6 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	１．なし
講習会	１．なし
催し物 （シンポジウム･セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	１．なし
大会研究集会	１．なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	１．なし
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	１．2016 年度実施の共同実験結果についての議論を行った。 ２．A 特性による遮音性能評価を行う際の測定上の課題について、収集したデータをもとに検討を行った。 を行った。 ３．2018 年度大会の OS について、企画立案を行った。
委員会活動の問題点・課題	委員会発足時の目標に従い活動を実施しているので、特に問題はない。

＊　小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

＊　中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用　自己評価欄

2017 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	１．音響インテンシシティシティ法の検討 15 年度: 局所的な漏洩音（室間遮音性能測定におけるフランキング成分）の計測に音響インテンシティ法を適用することを目的として、他の部位からの発生音の影響を把握するために、反射壁を用いた、より実際に近い音場を想定した共同実験を行った。 16 年度: 引き続きデータ整理を行った。 17 年度: フランキング成分の計測への適用を視野に共同実験の企画を進めた。 ２．pu センサを用いた吸音率および音場性状把握に関する検討 15 年度: 前年度まで実施した音響エネルギー密度の測定結果を再分析し、文献等でセンサ校正方法について委員間の知識の共有を行った。 16 年度: pu センサを用いた音響エネルギー密度計測（室内分布性状、床衝撃音、室間遮音への応用）およびセンサの校正について共同実験を追加で行い、実験結果について議論した。また、本センサに精通する研究者を招聘し、本検討結果も含めて、シンポジウムを開催した。 17 年度: 検討結果をまとめ、大会にて報告した。 ３．A 特性による遮音性能評価の検討 15 年度: 音環境規準検討小委の依頼により、A 特性による遮音性能評価の際の測定上の課題を整理した。 16 年度: 引き続き課題整理および遮音性能データの取集を行った。 17 年度: 遮音性能評価を行う際の測定上の課題について、収集したデータをもとに検討を行った。 ４．2018 年度大会の OS 17 年度: 2018 年度大会の OS について、主旨、プログラム等について企画立案を行った。

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画･目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価･外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。